

## 第 68 回町田市環境審議会 議事要旨

【 日 時 】 2016 年 11 月 22 日（火） 18：30-20：30

【 場 所 】 町田市庁舎 2 階 会議室 2-2

【 出席者 】

委 員： 吉村委員（会長）、川瀬委員（職務代理）、根本委員、鳴海委員、堂前委員、宮下委員、  
佐藤（正）委員、渋谷委員、中丸委員、山崎委員、渡邊委員、岩上委員

事務局： 環境資源部 小島、環境政策課 水島、宮坂、塩澤、濱田、坂牧、香山

傍 聴： 1 人

【 議 題 】

- 1 後期アクションプラン（案）の各施策内容（修正点）について
- 2 後期アクションプラン（案）の市民意見募集結果について

【 資 料 】

資料 1： 第 68 回環境審議会までの指摘と対応結果及び主な修正点

資料 2： 後期アクションプラン（案）

資料 3： 後期アクションプラン（案） 市民意見募集結果

<議題>

### 1 後期アクションプラン（案）の各施策内容（修正点）について

#### 1 章 後期アクションプランについて

根本委員： P3 からの前期アクションプランの総括において、重点事業の目標が達成されていないもの、見込みがないものがあることの理由が書かれていない。達成目標についても、例えばなぜマイカーの使用が控えられなかったのか、ごみの減量は達成が絶望的な状況にあるようだがなぜなのか、といった説明が必要である。アクションプランは P D C A の中でチェックをして次のアクションプランをたてるものなので、前期の進捗状況の総括を、上手くいっていない原因を含めて詳しく記載しないと、後期へのつながりが見る人に伝わらない。なぜ 2 章の施策が必要なのが分かるような 1 章の記載にしていきたい。

山崎委員： 同意見である。そういった記載がないと次につながらないと思う。

渡邊委員： 同じ意見である。基本目標 3 の①②③のうち、②はごみ処理施設に搬入される量、①は焼却される量であると思う。③の 2021 年度目標が 54%と、現状値からはとても達成できない数値に設定されているのは、新しい施設の稼働によるところが大きいのだと解釈したが正しいか。

事 務 局： ご指摘のとおり、③の資源化率は生ごみのバイオガス化 19,000t、容器包装プラスチックの資源化で 6,700t と、施設整備に伴う上昇を見込んでいる。バイオガス化施設は 2022 年 1 月に稼働予定である。

- 委員長： そういったところを含めて説明が足りないと言える。
- 渡邊委員： 施設の計画が後ろにずれている状況下で、無理のある目標に見える。もし目標を取り下げることができないのであれば、その理由を書いておくべきである。また、①、②は表現方法を変えてはどうか。今の、“ごみとして処理する量”という同じ表現では何を指しているのか正確に理解することは難しい。
- 鳴海委員： 今日この場での議論としてどこまでさかのぼって議論をすべきなのか。修正点を中心に議論をすべきなのか、範囲を広げて気付く点を述べるべきか、整理していただきたい。既に市民意見の募集も終わっているが、大幅な修正の余地は残されていると考えて良いのか。
- 事務局： 修正点に限定せず、気になる点はこの場で委員の皆様にご意見をいただき、対応できるものは対応していきたい。
- 委員長： 時間の制限はあるが、修正点に限定せず気が付いた点をご意見をいただきたい。
- 中丸委員： P4 基本目標 2 の③、エコファーマーは現状に適さない目標設定になっているとあるが、その対策が書かれているページを示した方が良いのではないかと。また、P5 基本目標 4 の光化学オキシダントの記載は、表中はO<sub>x</sub>でも良いが、文章中は“光化学オキシダント (O<sub>x</sub>)”とした方が読み手に親切ではないかと。
- 山崎委員： 光化学オキシダントの※印の表現について、基準を達成している 1 箇所はどういう状況なのか。単に町田市以外も達成率は低いとするのではなく、もう少し状況を記載するよう修正すべきではないかと。
- 岩上委員： 先ほどのこの場で議論すべきことという件について、重要な案件があると感じた。そういったものは、学識委員と事務局でヒアリングをして調整していただくと良いのではないかと。
- 根本委員： 市民意見募集後で大幅に修正できないということであれば、総括部分の修正は資料編として載せることでも良いかと思う。
- 鳴海委員： 説明を充実させる分には問題ないと思う。
- 岩上委員： P21 のコラムで、37%はどういう意味か。100%の内の 37%で、一番大きい割合を占めているということなのか、市民からの排出が多いということなのか全体像が見えない。残りの割合は何が占めているのか気になってしまう。
- 鳴海委員： P11 に記載があるものだと思う。
- 委員長： P11 では 38%、P21 では 37%になっている。いずれにせよ、総排出量についてはP11 参照という記載があると良いのではないかと。
- 渋谷委員： P9 の 2 章の見方は、矢印された部分の字が小さく見づらい。P9 はA3 にすると良いのではないかと。挿入場所はP10 から 2 章が始まるので、その後に入れた方が良い。また、整合性をとるという意味では 1 章にも見方が必要ではないかと。更に、見方は目次の中で強調してはどうか。
- 委員長： 様々な意見が出たが事務局はどうか。
- 事務局： できる限り、改善するようにしたい。場合によってはページを増やし構成を見直しながら対応していく。

## 2章 基本目標1 地域で取り組む地球温暖化の防止

- 岩上委員： P13に二酸化炭素を減らしましょうというコラムがあり、P21には歩きましょうのコラムがある。P21のコラムは、健康についてのみ記載しているのであれば分かるが、書き出しが二酸化炭素についてなので、この2つのコラムが別々にされていることが不思議である。
- 鳴海委員： 歩いて出かけるコラムはまちづくりではなく、意識の浸透に関するものなので1-1ではないか。そういった違和感を覚える点が他にも散見される。
- 委員長： コラムの配置はもう一度検討いただきたい。
- 根本委員： 文字数の問題もあるが、コラム・関連情報などの参照先が何ページか前後に飛ぶ場合は、どこを見れば良いのかももう少し書いてはどうか。
- 渋谷委員： P20のコラムに関連して、透水性舗装を広めていくと、既存の透水しない状態で設計していた雨水排水に何か影響があるのか。
- 事務局： 現状としては従前のおりの設計となると思う。維持の問題等で透水性舗装の技術は都で検討中であり、市は車道ではなく歩道に対して敷設を進めていく。
- 宮下委員： 透水舗装は現段階では、耐久性や維持管理の問題から車道ではなく、歩道・駐車場が対象になる。

## 2章 基本目標2 自然環境と歴史的文化的環境の保全

- 鳴海委員： 指摘事項13について、“沢や水路”は対応しなかったということで良いか。
- 事務局： “谷戸”としてはどうかというご提案だったが、この部分では“水”ということ伝えたいため、そのままにしている。
- 堂前委員： 一帯の自然として捉える視点からだど、“水路”という言葉ではカバーできない。元の文章があって引用しているのか。
- 岩上委員： 谷戸は田んぼや畑、山など全体で透水性がある。“沢や水路”だと流れのことだけを言っているのでは、イメージが違う。
- 委員長： もう一度事務局で検討いただきたい。
- 岩上委員： P34の関連情報、「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」を記載しているが、これは関東における選定である。もう一つ、生物多様性保全上重要な里地里山ということで環境省が同じ年に選定した。このことを記載してはと以前提案したが、必要ないと判断されたということか。また、ここでは北部丘陵のことしか述べていないが、三輪にも取り上げるべき緑地がある。
- 事務局： 再度調整する。
- 堂前委員： P34の関連情報が北部丘陵整備課の管轄範囲に限定されてしまうということなのであれば、P35の町田市のみどりの特徴にそういったものを入れてはどうか。
- 川瀬委員： P24のサブタイトルは“水とみどりと生き物を守り育むまちづくり”であるが、これは自然環境に関わるものを感じる。歴史的文化的に関係する良い表現があれば挿入したい。第3次マスタープランの策定の際に検討いただきたい。

## 2章 基本目標3 持続可能な循環型社会の構築

- 渡邊委員： P38の2点目の達成目標、一日一人あたりのごみ量2010年度の数値がP4の記載とずれているので統一が必要である。到底達成できそうにない目標値なので数値の見直しが必要ではないか。
- 委員長： 基準年の数値はもう一度確認いただきたい。
- 鳴海委員： 達成目標の1点目(①)と2点目(②)は、そのままリンクしている数字なのか。①の数字を人口と365日で割ると②の一人あたりの数字になるのか。
- 渡邊委員： ①は焼却する量、②は搬入される量であると思う。
- 事務局： ②は総ごみ量を人口と365日で割ったものである。
- 鳴海委員： P39に人口増加の影響についての記載があったが、一人あたりか世帯あたりかの数値でグラフを作れば、ごみ量の減少が分かりやすいのではないか。また目標も②が一人あたりなのであれば、①も一人あたりにした方が分かりやすい。
- 渡邊委員： もう少し丁寧に表現する必要がある。
- 鳴海委員： ①と②は何が違うのか、この表現では分からない。
- 渡邊委員： ③も、家庭で行う資源化と施設で生ごみをバイオガス化する資源化とがあるので、説明が必要である。
- 事務局： 一般廃棄物資源化基本計画に基づく表現ではあるが、ご指摘の点は改善する。

## 2章 基本目標4 良好な生活環境の創造

特になし

## 2章 基本目標5 環境に配慮した生活スタイルの定着

- 堂前委員： P63の副読本の関連情報について、学校教育に限らず市民の環境教育活動にも使用ができる等ダウンロード後の活用についても記載すると良いのではないか。
- 堂前委員： 市民等との協働事業として掲載しているハスのんマークについて、P64の施策①、生物多様性にかかわる多様な主体の交流の場づくりは市民団体の協働なしではできないものであり、マークを付けても良いのではないか。また、P66の施策②、町田市内の環境保全活動・活動団体等の環境情報収集も協働になるのではないか。
- 事務局： ご指摘の点は前向きに検討したい。
- 堂前委員： P64の交流の場づくりは、環境・自然共生課で色々な団体に呼び掛け、フォーラムを開催するのでマークはつくものだと思う。
- 川瀬委員： P64の施策は共生プランの重点施策で、市の主催する事業という位置づけかと思う。その経緯からマークをしていないのではないか。
- 事務局： 協働マークの定義は記載していないので、主催がどこに限らず市民団体等の協力ということでもマークをつけて良いのではないかと考えている。P64の事業はつけるように調整したい。実績の有無ではなく、今後の予定の中にあるものにもマークはつけていければと思う。
- 堂前委員： 所管課と調整をしないと付けられないということもあるかもしれないが、協働の可能性のある事業にはマークを付けた方が良い。

## 全体

- 山崎委員：表紙のデザイン・体裁は括弧の有無やフォントの大きさなど、マスタープラン・前期アクションプランと異なっているが問題はないか。
- 事務局：デザインは暫定版であり、今後調整を行う。
- 委員長：体裁も含めてご検討いただきたい。
- 岩上委員：P65の関連情報には、2つの話題が書かれている。○や△などで見出しを入れると読みやすくなるのではないか。
- 中丸委員：事業者の取り組みは市民の取り組みと似たものが多い。事業者の取り組みは一步踏み込み、環境を改善することに資するような取り組みについての記述があっても良いのではないか。
- 事務局：改善したい。
- 堂前委員：P21の歩きましょうのコラムは、環境に配慮した生活スタイルのコラムとしても良いのではないか。
- 委員長：全体を通して、コラムの配置を検討いただきたい。
- 渋谷委員：P50の上の方に、“4. 良好な生活環境の創造”とあるが、この4が基本目標の4だということが分かるようにしたほうが良いのではないか（基本目標1-5に共通して）。また、目次もそれに応じた形にしてはどうか。
- 事務局：検討する。
- 中丸委員：基本目標2で、町田に関連した人物のエピソードをいれると興味をひき、良いのではないか。赤瀬川原平がニラを植えた家を建てたことを屋上緑化の走りとして紹介したり、武相荘の白洲次郎を取り上げて面白いかと思う。今回のマスタープランではなくともその後の環境活動で何か使える場所があれば検討いただきたい。

## 2 後期アクションプラン（案）の市民意見募集結果について

- 鳴海委員：意見の内容区分のaとcの違いは何か。
- 事務局：aは現在実施している事業の展開において参考とするもの、cはこれから検討するものである。
- 鳴海委員：aは後期アクションプランに部分的にでも反映されるものということか。また、cは全く反映されないという理解で良いか。
- 川瀬委員：aは具体レベル、事業を実施する上で参考にする。cは必ずしも事業レベルではなく、構想・計画レベルの話ということと解釈したがどうか。
- 鳴海委員：透水性舗装の車道への敷設は、その考え方だとaに該当する。aは反映させる、cは難しいという区分なのであれば表現は具体的なものに変え、区分の見直しも必要である。全意見中何件は反映させるという結果につながることであるので、重要な点である。
- 委員長：もう一度事務局で検討をいただきたい。
- 岩上委員：基本目標5-2の、“何かプラスαあれば・・・”というのはご褒美のようなことを言っているのではないか。そうすると市の回答はずれている。
- 鳴海委員：インセンティブということであれば、植物の苗を配ることなどで意識を高めることにつながるのでは、すでに実施しているのではないか。

- 岩上委員： ごみを分別して持っていくと何かもらえるなどは既に実施している。
- 鳴海委員： 意識を高めるためにこのアクションプランを策定し施策を実施するので、実施済みで良いのではないかな。
- 委員 長： 一部既に実施しているものはある。そう考えると a か b になるのではないかな。
- 岩上委員： 実施しているのであれば、2-1 の源流祭のように、“行っています”という表現が適切である。
- 鳴海委員： 2-1 は a ではなく、b ではないかな。
- 委員 長： abc のつけ方はもう一度検討が必要である。
- 山崎委員： 基本目標 2 の 3 番目、雨水タンクの補助について、“他市の状況も見ながら”という表現がある。内々ではそういう面があったとしても、補助事業の実施の可否はその他の補助事業とのプライオリティーや効果などで決定するものではないかな。また、広報紙情報発信の参考とは、広報紙やホームページで情報発信を実施していくということなのか、情報発信をもし実施することがあれば参考にするということなのか。
- 委員 長： 前段の表現は検討いただきたい。後段の情報発信についてはどうか。
- 事務局： 情報発信は行っているが、その方法として参考にさせていただくということである。
- 山崎委員： 広報紙やホームページでの情報発信は既に行っているということか。
- 事務局： 貯めた水の使い方ということではないが、担当部署では関連する発信を行っている。その中で今後の参考にするということである。
- 渋谷委員： 基本目標 4 のご意見で、“大人でも知らない人が多い”とあるが、資料 2 の P 54 施策④の下にスペースがあるので、河川の管轄の話題を取り上げてはどうか。例えば境川は上流と下流で管轄が分かれているので、そういったことを掲載すると親切なのではないかな。
- 委員 長： 事務局でご検討いただきたい。
- 委員 長： 市民意見募集結果については、内容を修正したもので公表となる。